

創立40周年記念式典・記念講演要旨

記 念 式 典

日本獣医史学会理事長挨拶

小佐々 学

皆様のご協力によりまして、お蔭さまで日本獣医史学会は、本日、創立40周年記念式典を迎えることができました。

ご参列いただきましたご来賓の皆様をはじめ、長年にわたり本会の発展にご尽力下さいました会員や賛助会員をはじめ、関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

かえりみますと、本会は獣医学の歴史を後世に伝えることの重要性を痛感された東京大学名誉教授の田中丑雄先生が、当時『獣医畜産新報』の主幹でありました白井紅白先生に、獣医学の歴史に関する研究会の設立を提案されました。このような経緯から、1972年6月に「日本獣医史学研究会」が発足いたしました。次いで、1976年に「日本獣医史学会」という現在の名称に変更されて、今日に至っております。

その間、年2回の研究発表会と懇親会が開催されて、獣医学・畜産学・動物学など関連分野の歴史の探求とともに会員の皆様の親睦と交流の場となって発展してまいりました。

また、日本医史学会、日本薬史学会、日本歯科医史学会、日本看護歴史学会とも連携して「医学系五史学会」の合同例会が毎年開催されており、基礎医学、臨床医学、公衆衛生学などのほか、動物愛護、動物福祉やヒューマン・アニマル・ボンド(人と動物の絆)などの関連分野にも、活動の輪を広げてまいりました。さらに、世界獣医史学会の会員として、学会発表や情報交換などの国際的な活動も行っております。

現在、獣医史学を獣医学教育における重要部門として位置づけることは、わが国のみならず世界的な流れになってきております。

この度の獣医学・学部教育改革の一環として、獣医学コア・カリキュラムが制定されましたが、「獣医史学」はその中の「獣医学概論」において重要な部分を占めております。現在でも日本獣医生命科学大学では獣医史学の講義が開講されていますが、将来はわが国の全ての獣医大学で獣医史学が開講されるものと考えております。

このような状況下で迎えた創立40周年記念式典を契機にして獣医学の歴史を若い世代に引き継いで行くために、皆様のご尽力とご協力をお願いする次第です。

「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」といわれております。獣医史学教育の普及により、自らの職業に対する誇りや使命と責任を知ることにより、今まで以上に広い視野と社会的良識や見識を備えた獣医師が育っていくことを願っております。

終りにあたり、この記念事業のためにご協力いただいた協賛企業や団体の皆様、さらにはご尽力いただいた実行委員長の小野寺節常務理事や、本会事務局長で現在は日本獣医学会理事長でもあります中山裕之常務理事をはじめ、役員、会員や賛助会員の皆様など全ての関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

開催日および場所

平成24年10月27日、東京大学農学部フードサイエンス棟・中島ホール

来賓挨拶

- (1) 日本獣医師会 山根義久会長（矢ヶ崎忠夫専務理事 代読）
- (2) 日本医史学会 酒井シヅ会長
- (3) 日本獣医学会 中山裕之理事長
- (4) 日本獣医史学会 深谷謙二顧問

表彰

功労賞：

- (1) 池本卯典（日本の獣医史学教育の推進と発展への功績）
- (2) 石田卓夫（日本の猫病史の研究業績）
- (3) 倉林恵太郎（日本の犬病史の研究業績）
- (4) 佐藤静夫（日本の鶏病史の研究業績）
- (5) 唐仁原景昭（日本の狂犬病史の研究業績）
- (6) 亀谷勉（会務の運営と学術の発展への功績）

感謝状：

- (1) 公益社団法人 日本獣医師会（賛助会員）
- (2) 共立製薬株式会社（賛助会員）
- (3) 赤阪動物病院（賛助会員）
- (4) ダクタリ動物病院（賛助会員）
- (5) 一般財団法人 日本生物科学研究所（賛助会員）
- (6) メリアル・ジャパン株式会社（賛助会員）
- (7) 富士フイルム株式会社（協賛）
- (8) 株式会社 微生物化学研究所（協賛）